

第50回日本のうたごえ全国協議会総会

方針

はじめに

昨年11月に初めて四国・愛媛で開催された「2016年日本のうたごえ祭典 in えひめ」(以下、えひめ祭典)は、3日間でのべ1万1千人が集い、「いのち輝く未来へ、平和と希望を歌おう」をサブタイトルに、高らかにうたごえを響かせ大成功をおさめることができた。

戦後の平和と民主主義、しあわせを求める要求や行動、たたかいが大きくたちあがる中で「うたはたたかいとともに」「うたごえは平和の力」のスローガンのもと、「うたごえ運動」は1948年の中央合唱団創立を機に、各地にうたごえサークル・合唱団がつくられ、今日まで大きく発展してきた。運動の前進とともに昭和30年代に高揚した「うたごえ喫茶」は、最盛期、全国で100軒を越えたとも言われており、その後、カラオケの流行もあって一時期衰退していたときもあったが、昨今、往時の若者が定年を迎えたことなどを背景に再びブームに火がついた。

うたごえ新聞に掲載されている「今週のうたごえ喫茶」だけでも年間1800回近く(2015年)を数える。そのうたごえ運動がいよいよ来年創立70周年を迎える。記念すべき年を目前にした本年、日本国憲法が施行から70年を迎える状況の下で、いま、国のかたちが大きく揺らぐようとしている。それは、「世界にさきがけて『戦争をしない』という大きな理想をかかげ、忠実に実行してきた」憲法を70年間、堅持してきた国の揺らぎであり、喘ぎである。昨年11月、安倍政権は、南スー

ダンPKOに派遣の自衛隊部隊に対し、戦争法に基づく「駆け付け警護」の新任務を付与することを閣議決定、「専守防衛」を根本方針としてきた自衛隊員が「殺し、殺される」事態に巻き込まれる危険性が一気に高まった。

例え戦争による被害でなくても、これまでに海外での遺体回収や戦地での過酷なストレス等により、帰国した自衛隊員のうち56名が在職中に自殺している。

この戦争法廃止のため、全国でも街頭宣伝等が繰り返されているが、一昨年8月にうたごえ・労音・音楽センターが事務局として、池辺晋一郎・井上鑑・栗山文昭氏ら9人がよびかけ人となり、「戦争法に終止符を! 音楽人・団体の会」が発足した。会には、昨年末までに500人(団体含む)を超える賛同が寄せられ、それらの賛同者から2千筆近い戦争法反対の署名が寄せられている。

沖縄では、辺野古の米軍新基地建設をめぐり、国が埋め立て承認「取り消し」は違法として県を訴えた訴訟で、最高裁が国側勝訴の不当判決を出し、これを受けて工事が昨年末に再開された。オスプレイ墜落事故についても政府は、米軍の言いなりに原因の究明もまま飛行訓練を「理解できる」として再開させた。

今後、高江で強行しているオスプレイパッドにオスプレイを飛行させないためにも辺野古新基地をストップさせることが重要で、本年は「オール沖縄」のたたかいへの支援・連帯を一層強めていく必要がある。

日本のうたごえ全国協議会は、沖縄のうたごえ協議会と共同して一昨年「沖縄を返せ! 辺野古新基地建設阻止・うたごえ大行動本部」を立ち上げ、これまで2回にわたる大行動のほか、昨年は6万5千人が集まった米軍属女性暴行殺人事件に抗議する「6・19県民大会」に全国からの派遣をよびかけたほか、「うたごえ合宿」や「創作合宿」などにも積極的に取り組んできた。これらの活動財源として「辺野古基金」への支援も含めた「沖縄を返せうたごえ基金」を全国に呼びかけているところ

であり、闘争の強化とともに基金の取り組みも強める必要がある。

福島からの避難者に対する原発いじめが、いまや社会問題になっている。政府は膨らみ続ける原発事故処理費用（21兆円超え）のツケを国民負担増に求める方針を打ち出した。

その一方で、昨年末閣議決定された2017年度政府予算案は、軍事費は前年比710億円増額の5兆1251億円とし、過去最大を更新した。これには沖縄県で墜落したオスプレイ4機の購入費391億円も含まれている。

国会では、発効が見通せないTPPが承認され、年金カット法や、ギャンブル依存症などが懸念されるカジノ解禁推進法が会期延長の末に相次いで強行成立、安倍内閣は国民の不安を置き去りにして、数々の暴走を続けている。

働く者にもますます厳しい追い打ちがかけられようとしている。成長戦略の名のもとに、国際基準を無視し、労働問題を議論すべき公益、労働、経営の3者で構成される労働政策審議会とは別に、政策決定の場から労働者代表の声を遠ざける「働き方改革実現会議」をつくり、労働者保護ルールを改悪し労働者を犠牲にする政策が強力にすすめられようとしている。働く者の立場に立った歌を創り広げ、安心して働き続けられる労働法制を確立させなければならない。

しかし、一方で悪政の行き詰まりも見え始め、希望をもって情勢を切り開いていくことができる状況も生まれている。

一石を投じたのは地方の民意である。鹿児島、新潟県知事選で「原発再稼働は認めない」の旗印を掲げた統一候補が圧勝、参院選では基地問題で争点が明確な沖縄、復興途上の東北などの改選一人区で、野党統一候補11人が当選した。

昨年末の国連総会で、核兵器禁止条約の締結交渉を3月と6と7月に行うという画期的な決議が圧倒的多数で採択されたが、日本政府は核保有国と並んでこれに反対、被爆国にあるまじき態度をとった。この法的拘束力のある条約締結への交渉により、核兵器は人類史上初めて「違法」とされ、「核兵器のない世界」への流れがかつてなく高まってきた。

私たちがうたごえも、これらの動きに「ヒバクシャ核廃絶国際署名」はじめ、歌や音楽を通じて応えていきたい。

今年は、戦争法の本格運用や、改憲勢力が衆参両院で3分の2を超える「数の論理」で9条を狙った動きも重大化することが予想される。

いま、全国で安倍暴走内閣と対決する市民と野党との共闘が広がっている。力を合わせてこの流れを強く大きくしていくことが、希望ある未来を展望できる道であり、今年はその正念場といえる。

来年、70周年記念日本のうたごえ祭典が開かれる東京では、日本最大級のクラシック音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」が、東京国際フォーラム等で2005年から毎年GWに開催されている。出演アーティストは2千人以上。約350公演のうち半分以上は無料公演で、昨年は約43万人が参加している。東京開催の成功を受けて全国4カ所で地方開催が行われているが、そのひとつが「ラ・フォル・ジュルネ金沢」である。その企画制作の一体であり、出演者でもあるオーケストラ・アンサンブル金沢と、同じく出演者であり石川県立音楽堂洋楽監督である池辺晋一郎氏をゲストに2017年日本のうたごえ祭典 in いしかわ・北陸が今秋開催される。いしかわ・北陸祭典を成功させ、来年の70周年記念東京祭典の成功につなげたい。

今日、文化の多様化が進むと同時に、人格を否定するような文化も多くなっている。しかし、震災以降、若者を中心にやがりや絆を求める人間らしい音楽も生み出され広がっている。生きる力となる平和で健康的なうたごえを生み出し広げるならば、新たな広がりをつくることができる。

うたごえは、万人の願いを描き、人間の苦しみや嘆きを代弁し、時代を捉えて批判の目を研ぎ澄まし、人間味溢れる愛情の目を注ぎながら、人間の誇りを胸に憲法のこころと人間の尊厳をうたう「歌う日本国憲法請負人」である。

今年、うたごえがこれまで取り組んできた「戦争法廃止」「沖縄新基

2016年度 活動のまとめ

1 うたごえを創り広げる活動

①憲法のこころ、沖縄のこころを歌に、戦争法廃止、辺野古新基地建設阻止、原発ゼロのうたごえを広める

6月、9月と第二次、第三次の沖縄合宿を行い、6月は6・19沖縄県民大会にあわせて緊急派遣を行った。引き続き、うたごえ沖縄基金を募集。大阪のうたごえ協議会は9月に45人で沖縄・辺野古と高江の行動に参加しうたごえで激励。また、地元に戻ったの継続的な沖縄連帯のうたごえ活動を行った。祭典の中では、沖縄合宿で生まれた「命の海命の森 命の山々」を演奏した。各地で、支援コンサートがとりくまれた。

「戦争法」（安全保障関連法）廃止のうたごえは、2千万署名運動と共に全国各地で、毎月の「19行動」を中心に行われた。6・9総がかり行動や、強行採決1年の9・19統一行動などで「沖縄今こそ立ち上がるうた」など沖縄連帯とあわせて歌って声を上げた。

震災後5年を過ぎた東日本震災の被災地への連帯活動も、祭典での合唱構成「ふくしまに生きる」の演奏をはじめ、引き続き、東京（南部合唱団はじめ実行委員会）、大阪（レガータほか実行委員会）の震災復興チャリティーコンサートなどが、まわりの人々と共に取り組まれた。

無言館をテーマに、音楽センターもかわって、神戸市役所センター合唱団と長野のうたごえ協議会できり、初演した混声合唱組曲「こわしてはいけなく無言館をうたう」（窪島誠一郎：詩、池辺晋一郎：曲）は、憲法の心を今こそ歌う歌として、各地で話題となり、広まり始めている。

②「いつでも、どこでも、うたごえを」を合言葉に、歌う喜びをひろげる活動

気軽に参加してうたう喜びを共有できるうたごえ喫茶の活動も引き続き広がっている。えひめ祭典では、大みんうたう会でそれらの歌いたい要求に応えた。

3・1ビキニデー、メーデー、憲法集会、母親大会、原水爆禁止国民平和大行進、平和大会など、各種の運動の中でうたごえを響かせた。原水爆禁止世界大会・広島では、地元広島島のうたごえを中心に全体会を盛り上げ、長崎では合唱構成「ノーモア・ヒバクシャ」を演奏した。石川での日本母親大会では、翌年の日本のうたごえ祭典開催につながる分科会、全体会で演奏した。平和大会では、青森と東北のうたごえが連帯して演奏した。

4月の熊本震災には、全国からのカンパと共に、地元うたごえが歌で被災者を励ました。原発ゼロへ、震災・原発事故から5年、チャリティーコンサート「福島を風化させない2016」を5合唱団が合同で開催。各地で3・11のつどいなどで演奏。争議支援のとりくみでは、京都の団結・交流まつりなど各地で連帯のうたごえが響いた。

③うたごえ運動70周年にむかう創造を担う「70周年プロジェクト」のとりくみ

2018年の70周年に向けて、うたごえの名曲を著名な作曲家に委嘱したニューアレンジ編、辺野古・戦争法・原発をテーマに創作キャンペーン、同テーマで記念創作（公募）をとりくんだ。ニューアレンジは、6人の作曲家に18曲を依頼。創作キャンペーンでは45曲が届きHP

上で公開。記念創作には、29編の詩が応募され、選考後、作曲に57編が応募。今総会で入選曲が発表される。記念の委嘱作品についても検討されたが、時間的なことなどもあり今の時代、組曲「こわしてはいけない」を歌っていくことが重要ではないかとの方向が出されている。

④多くの人が「こぞつて歌える」愛唱歌を創り出す

辺野古・高江でのたたかひの現場から歌づくりをしようと、2月、6月、9月、3度の「うたごえ沖縄合宿」を実施した。座り込み行動、県民大会に全国各地から参加し、歌い、学び交流する中から「命の海 命の森 命の山々」「尊厳のまち」「一歩も退かない」など6曲を生み出した。大阪ほか全国のサークル・合唱団、地域から独自に沖縄ツアーを計画、全国創作講習会での創作にも結びついた。熊本の内山幸夫さんの「あきらめないで」は、復興めざしてがんばろうと震災の地から創作で発信。

全国創作講習会は、参加者を広げるため1泊2日とし、今年は関西ブロックとして参加を呼びかけ、6月に大阪市で開催。11道府県から45名が参加。約50編の持ち寄り詩・曲、生まれた曲は21曲。初参加者からは「こんな簡単な曲だったとは!」「楽しんでつくるのができました」などの感想が寄せられた。この方向性を継続しながら創作部とブロックとの連携を強化することが課題である。

えひめ祭典・オリジナルコンサートは、参加基準を各県・産別などで創作発表された中から5曲に1曲の推薦とし、35団体40曲が発表された。沖縄うたごえ合宿などの取り組みもあり、沖縄や戦争をテーマとした曲が多かった。創作を自分の表現として獲得しつつある。初参加も増え、着想や曲想の新鮮さも数多く感じられる「演奏会」であった。全国創作講習会、北海道、東京、愛知、京都、岡山、教育など集団創作の積み重ねが反映している。職場の歌が少なく、働く人の強さに目を向けた作品を望みたい。

「戦争法廃止・改憲をゆるさない」歌づくり募集。「日本のうたごえ70周年記念創作」公募。平均年齢80歳を超える広島・長崎の被爆者が「生きている間に何としても核兵器のない世界を」という思いで始めら

れた「ヒバクシャ国際署名」などからも多くの作品が生まれている。署名の中で「平和のバトン」を歌った京都のように、生まれた作品を歌う場を意識的につくることも大切である。

2 合唱発表会運動、地域・分野のうたごえ祭典

①県、産別、全国の合唱発表会のとりくみ

33都道府県、6産別、1階層で合唱発表会が行われ、1353団体が参加。

祭典の成果で、愛媛での開催が実現した。年に1回の地域の発表会を楽しむに、実行委員会参加団体が新しいサークルを誘ってくる(京都)などの経験も生まれている。

全国の発表会には、261団体が参加。小編成が38団体と定着。部門が増えて、並行開催となり、掛け持ち出演者の対応などの課題とともに、聞き手が少ない発表会の現状は、聞き合い、学び合うという合唱発表会の原点を問われている。申込書類の提出期限の厳守、運営、実務面での改善、マニュアル化などとともに、合唱発表会の在り方そのものを検討する課題がある。

②地方祭典、産別祭典など

県祭典は、北海道、山形、長野、兵庫、広島の5県、ブロック祭典は九州ブロック、産別祭典は、国鉄、私鉄、電通、医療の4産別、階層では青年が開催。

教育のうたごえ交流会は、福島で開催。合唱構成「ふくしまに生きる」で東北と共に祭典のステージへとつないだ。国鉄は60回の祭典を東京で開催。保育は、青いとり保育園の争議と連帯して京都で交流会。

職場サークルをどう発展させるかの課題もある。

合唱構成「平和の旅へ」を合同で歌った九州の祭典は、えひめ祭典の沖縄連帯のステージ「命の海:」もとりあげ、祭典につないだ。

③日本のうたごえ祭典 in えひめのとりくみ

えひめ祭典は、大音楽会3500人、特別音楽会2500人、合唱発表会・オリジナルコンサートにのべ5000人など、あわせて1万1千人の参加で成功した。

JAL 争議団を真ん中に思いを歌い上げた働く仲間のステージ、ふくしまに生きる、沖縄連帯と、広げ届けた大音楽会。高校生の書道パフォーマンスと共に若さはじけたステージで開けた特別音楽会は、地元合唱連盟理事長のソロも祭典の広がりをもたらし、秋を彩る大うたごえ会も愛媛らしさを生きた企画。知事、市長もメッセージを寄せた祭典の広がりも特徴的。また、全国からの大音楽会、特別音楽会あわせて3900人を超える参加は、全国祭典としての連帯を示した。

④2017年以後の日本のうたごえ祭典のとりくみ

2017年のいしかわ・北陸祭典に向けて、福井・富山も参加して石川で実行委員会が立ち上げられた。石川ではえひめ祭典への参加の中で主催者としての意識も増し、祭典成功の基礎固めとしてのうたごえ新聞読者など組織の確立を進めながら、企画づくりなど準備が進んでいる。

東京での開催が決まった2018年70周年祭典に向けては、会場探しとあわせて企画内容についての話し合いも、70周年プロジェクトとも連携しながら進められた。2019年以後については、2023年運動75周年までの開催候補地について祭典プロジェクトで検討が進められている。

3 うたごえ新聞

うたごえ新聞をいっそう輝かせ、読者を常に意識的に広げ、創刊60周年記念「うたごえ新聞まつり」を全国で展開する活動

「戦争法廃止・憲法をまもり活かす、米軍辺野古新基地建設阻止へ、

核兵器廃絶、原発再稼働反対、震災被災地の復興へ。いのちと暮らしをまもる活動を音楽を豊かに輝かせて進める」ために、えひめ祭典とつないで、編集にあたった。

特に今年度は、戦争法廃止、沖縄の闘いに音楽づくりと合わせた各地のとりくみを伝える通信が活発に寄せられたことが特筆される。通信と合わせて、2回に渡る「戦争法廃止へ、私はこの曲に込めて」、沖縄の闘い連帯では沖縄発「沖縄の叫び」連載と3回の「沖縄うたごえ行動」を特集。また、「うたごえの未来 青年メンバーの思い」「各地のうたごえ喫茶から」の特集も好評を得た。

運動づくりへ、各界から登場のインタビューには、ソウルフラワー・ユニオンの中川敬氏、「戦争させない・9条壊すな！総がかり実行委員会」の高田健氏（今なぜ、『2000万署名』か）、「アベ政治を許さない」揮毫の俳人金子兜太氏、詩人堤江実さん、「ヒバクシャ国際署名」へ児玉三智子被団協事務局次長、無言館館主・作家窪島誠一郎氏、ジャーナリスト岸井成格氏ら。作曲家木下牧子さん、元NHKエグゼクティブアナウンサーの村井信夫氏、えひめ祭典のとりくみから、全日本合唱連盟名誉会長浅井敬壹氏、声楽家・愛媛県合唱連盟理事長市村公子さん、声楽家秋川雅史氏、ジャズピアニスト好井敏彦氏らの登場で豊かな音楽創造・運動展開の示唆をいただいた。

①創刊60周年記念「うたごえ新聞まつり」成功、過去最高の読者数をめざす

前年4月から始まった全国12カ所での「創刊60周年うたごえ新聞まつり」―池辺晋一郎氏コーディネーターのトークと氏の指揮でのミニコンサート―は、残る3カ所（北海道、千葉、石川）を開催。各ゲスト、北海道は作家・詩人池澤夏樹、千葉は音楽評論家・作詞家湯川れい子、石川は女優若村麻由美の各氏を迎えた。ミニコンサートは各地共通の「アメイジング・グレイス」などの他、北海道は池澤作詩・池辺曲「夢売り」を、石川は合唱組曲「水の旅」（高塚かず子詩）を演奏して、2017年日本のうたごえ祭典 in いしかわ・北陸”につないだ。

全まつりを終えて、4月23日には、60周年記念レセプションを開催。池辺氏と合唱指揮者栗山文昭氏、歌手普天間かおりさんの記念トーク。あいさつでは「歌の力とその力を伝える新聞」（伊藤千尋）、「音楽の姿、姿勢を共に学ぶ」（小村公次）など激励と期待を受けた。

これらのとりくみのなかで飛躍的とはいかないが多くの読者を迎えた。

読者拡大では、34都道府県で1000人の新読者を迎えた（1月25日現在）。拡大運動を活発にするために、組織活動者会議を開催し、経交流と意思統一をはかった。さらに、全国支局会議を行い、読者拡大に特化した意思統一を行った結果、9月の会議以後、14週連続の増紙となった。年間目標を達成した大阪。協議会議長が先頭にニュースも作って「うた新バラ色サイクル」を打ち出して前進した静岡。事務局長が先頭に立ってサークル訪問もして成果をあげている神奈川など、支局会議の成果を機にとりくみが進んだ。京都では、地域の合唱発表会参加団体の読者に「おススメ文」を書いてもらってチラシをつくるなどの工夫もされ、支局会議で全国に共有された。

②規模の大小を問わず、「うた新フォーラム」などを全国で展開する。県総会で、長野、広島では記念講演として新聞を中心に置き、論議された。また、うたごえ新聞の役割、読者拡大の論議に絞った9月の全国支局会議の成功を受けて、神奈川、千葉などで県の支局会議が開催された。

③通信活動を活発にし、全国の経験を学びあう

今年度の全国総通信数は1067（前年1021）。前年比では微増だが、この中で特出は大阪の182（ニュースを除く送稿63）と群を抜き、通信活動が読者拡大につながっている。続いて東京の46（総数143）、長野の24（総数37）。特に大阪の通信活動は、府下でとりくまれた精力的な沖繩連帯活動と、新聞を通して全国に伝えるという意識化の反映であり、全国化していく必要がある。

えひめ祭典成功への開催地からの送稿は別枠だが、特に「愛媛ガイド」

は好評、祭典参加運動にも波及した。

④季刊「日本のうたごえ」の位置づけを高め、積極的な活用と、会員購読をめざす

No.171〜174を発行。No.171は2015年日本のうたごえ祭典in愛知（合唱発表会演奏批評座談会含め）、No.172は全国総会（石川康宏神戸女学院大学教授の記念講演、全総会発言）、No.173は全国協議会規約改正案討議に向けて、No.174は2016年日本のうたごえ祭典inえひめ（合唱発表会演奏批評座談会含め）を特集。また、2015年からのうたごえ新聞まつり記念トーク全文を順次掲載した。

週刊のうたごえ新聞と合わせて、一定のペースをとり、深く論評、考察し、運動を進める手引きとして季刊で発行の本誌だが、独自企画の追求、活用・普及はさらに求められる。「総会特集号は読み応えがありました。子どもの貧困、TPP問題、経済の軍事化、原発問題、戦争法、どれを見ても安倍政権を倒し、変えるしかないことがよくわかります。各総会発言に励まされ、感動しました。：合唱団福岡あらぐさの『季刊で団学習、購読率は92・5%』をわが団でも提案したいと思います」（通信）などを教訓にする必要がある。

4 学習・教育活動

学習・教育活動をすすめ、次代を担うリーダーを計画的に育てる活動

①運動の歴史を引き継ぎ、日常の練習や活動の中での教育活動の重視、批評活動、運動の理論活動

全国各地でサークル・合唱団、あるいは小編成グループなどが演奏会を開催、様々な音楽会への出演など旺盛な演奏活動が行われている。また、集会での演奏、様々な要求団体との交流と提携にうたごえを役立てる活動が展開されている。

客演指揮を招く、特別練習で外部講師を招く、などの学習活動に加え、

日常的なボイストレーニング、合唱団の声づくりが重要になっている。えひめ祭典・合唱発表会の講評では、合唱の基本、伝えること、聴きあうこと、その大切さも指摘された。

作品の題材となる人々、現地との交流、作品を深める努力など、音楽を豊かにする活動も展開されている。また、今日的なテーマに沿って合唱曲を委嘱、編曲など新たな作品も多く創られ、合唱団の音楽的成長と演奏の幅を広げている。これらの日常活動の交流、演奏を聴く機会を増やす、などが更に求められる。日本のうたごえ祭典・全国合唱発表会はその良い機会であり、互いに聴き合い、学び合うことが重要である。

日本のうたごえ合唱団2016は154名で結成。九州のうたごえ祭典 in 北九州、日本のうたごえ祭典 in えひめ・特別音楽会等に出演した。全国協議会の方針のもと、全国から自主的に参加する合唱団として、うたごえ運動の創造の一つの到達を示しているが、その実践から得る経験、交流は教育的な学習として還元されている。また「ひとりの歌」「魔法はだれだ！」の合唱作品を創作した。

講習会や指揮講座の中で「うたごえに生きる」を使って学んだ北海道など、うたごえの理論学習も行われた。

②うたごえ新聞、季刊「日本のうたごえ」の積極的な活用

各地での演奏会の取り組みの様子や音楽会を聴いての感想、演奏会評などが多く紹介されている。合唱発表会講評、また、季刊「日本のうたごえ」誌上での座談会など、うたごえ運動の創造理念、専門家の指摘等、示唆に富む内容が多い。積極的に活用すること、また、前年度の指摘がどう生かされているか、などの視点も重要である。日本のうたごえ祭典・合唱発表会総評での指摘、課題等は具体的な改善点とする必要がある。

③各種全国講習会、協議会やブロック等での指揮者・指導者の交流、ネットワークづくり、サークル・合唱団・協議会の次代を担うリーダーづくりの計画をもつ

全国合唱講習会、西日本は5月4、5日、愛媛で112名が参加。東

日本は5月14、15日、東京で125名の参加で行われた。西では、日本のうたごえ祭典開催地として、全国合同曲等を講習曲としてその音楽的な理解を深めるとともに祭典のイメージを膨らませた。発声講師の市村公子さんの指導は、年齢的条件を楽しく克服する示唆に富むものであった。東では、祭典合同曲に加えて日常演奏に生かす曲も取り上げようと選曲、作品の背景などもあらためて感じさせる講習となった。東西ともに発声講座が好評。演奏創造の課題、要求に応えた。日常とは違う合唱経験、音楽づくりを大勢が集って学び合うことは、大いに貴重であり学びの宝庫である。幅広い講師陣、新たな創造リーダーによる講習の継続、豊かな選曲など、その必要性が強調されている。

指揮・合唱指導講習会（教育講習会）は、6月17、19日、長野県松本市で、90名の参加で開催。合唱特別講師に相澤直人氏を迎え、新鮮で巧みな指導、多角的な声のとらえ方による合唱づくりなど好評。工藤俊幸氏の鋭く的確な指導による指揮法特別講座、太田真季さんの発声指導、受講者の要求に合わせたコース別指揮法など、人前で学ぶ教育講習会は、現役指揮者・音楽リーダー、新リーダーはもとより、合唱隊としての参加者も様々な角度からの発見、成長が実感され、貴重である。全国で実りある豊かな音楽運動を進めていくために、更に参加の幅を広げること、指導者自らが求めて行くこと、またそのための内容づくりの研究等が更に必要と言える。

地域、ブロック、合唱団単位の講習会、セミナー、指揮講座等も各地で行われている。北海道、九州では合唱講習会を毎年継続して開催、それぞれうたごえ祭典での合同演奏、日本のうたごえ祭典での全国合同参加を支えている。北海道では創作、指揮の勉強会も系統的に行われ成果を積み重ねている。北海道、九州では、祭典を地域、各県での持ち回りとして、その準備を市民運動的に進めることで、専門家との協力、共同を広げ、成果を上げている。東海のうたごえ交流会、東北のブロック交流会も継続されている。

大阪の合唱研究会、指揮勉強会、東京の指揮考座など各地で地道な勉強会も続けられている。次世代を担う新たなリーダーの入り口としても

有意義である。

新入団員の獲得、合唱団の声づくり、声楽の団内発表会、外部講師による指導の回数と内容など合唱団独自の教育活動を知り合うこと、指揮者・指導者が日常の実践を報告し合い、交流し、学び合うことなど具体的に結集する機会を持ち、ネットワークをつくり、情報のやり取り等を検討し、音楽創造のあり方を深め合うことも必要と言える。

うたごえ運動における創造の特徴、良さなども明らかにし、幅広く学習を深めていく必要がある。

うたごえ運動とは何か？ という根本について学ぶことも重要となっている。

5 青年のうたごえ

青年サークルづくりを積極的にすすめる、青年の要求と結び合い、多くの青年を迎える活動

①サークル・合唱団・協議会で、青年・学生と繋がる活動を意識的に持つ

ブルースカイ、ザ・イスカンドルは初の独自コンサートを行い、歌い手を定着させている。"Green Love Cantabile" はえひめ祭典を通じ、愛媛や高知などで青年・学生の歌い手を広めた。福井では、ライブ活動等を通じて仲間を広げ、日本のうたごえ祭典 in いしかわ・北陸に向けて、現地の青年との結びつきを強めている。東海青年のうたごえは県内の平和団体や青年団体なども協力・交流し、歌い手を広げている。

SNSの活用、LINEでの連絡共有も奏効した。

サークル・合唱団・協議会で議論し、担当もおき、連絡会などの活動を活発化させ、さらに広い青年との繋がりを進めることも大切で

ある。

②仲間づくり、サークルづくりへ、団体・分野を越えたネットワーキングを強める

3・1ビキニデーの青年企画、Rink! Link Zeroin 静岡では青年のうたごえとして実行委員会に参加し、協力した。8月の原水爆禁止世界大会には全国から参加した青年がメインステージで演奏した。京都では青年革新懇や青学連、文化団体連絡協議会などと共同の取り組みなどから、サークルの研究生に迎え、結びつきを強めている。演奏会に他県から駆けつけるなど交流が活発化している。

③全国青年のうたごえ祭典 in 東京（仮称）を青年のうたごえを活性化する場として位置づけ、青年を積極的に送り出し、えひめ祭典につなげる

"2016全国青年のうたごえ祭典 in 東京 とどろけ！ HEIWA Aのうたごえ♪"には、全国から青年約70人が参加し、えひめ祭典へのステップとなった。4年振りの祭典として、多くの合同演奏も取り組んだ。

えひめ祭典・青年合同ステージに向けては、本番指揮者が各地に出向き、音楽づくりを深めた。サークルの演奏会や地元祭典での発表、全国各地で音楽づくりを行った。現地・全国で保育分野との協力を進めた。当日は大音楽会・特別音楽会合わせて5曲を現地・全国含め100人を超す青年で歌った。

6 サークル・合唱団・協議会づくり、ブロック連帯活動

サークル・合唱団をつくり、大きくし、うたごえ協議会づくり。地域ブロックの連帯活動を活発に

①サークル・合唱団を新たにつくり、合唱団員をふやす活動

祭典のとりくみを通して、えひめ祭典開催地愛媛では、シニアや地域などで2つのサークルが生まれ、新たにつながったサークルと共に協議会加盟も見えている。大阪では、千代田ぞうれっしや合唱団で歌った先生・お母さんたちが集まり「utaitai」が結成された。

京都の合唱団みなみ風では、退職教職員団員から、仲間が仲間を誘う形で広げ、団員を倍加している。関西紫金草合唱団は、中国を中心に11回の海外公演を行い、その中で中国の方15人の入団者を迎えた。

各地で、研究生制度、演奏会に向けた特別団員、市民合唱団など、粘り強い働きかけ、音楽の魅力でなど、工夫して新しい団員を増やしている。

②合唱発表会参加団体、協議会加盟団体、うたごえ新聞・季刊読者を増やすことを、サークル・合唱団で討議し、目標を持ち、計画的に増やす活動

福島では教育のうたごえ交流会を機に「子どもの幸せと平和を希う・福島親と子のうたごえ」、長野では県祭典、日本のうたごえ祭典参加を通して「佐久LOVE&PEACE」、教育祭典をきっかけに神奈川の「サラサとルルジ合唱団」、京都では地域祭典を共にとりくむ中で「ホテル合唱団」「K. T. I.」「うたう会」「G & B」など、祭典運動を通しての加盟が広がった。

全国の経験が交流される中、各地で、協議会役員がサークルに足を運び、うたごえ新聞購読と加盟を訴える活動が行われ、加盟に結んでいる。

③加盟団体500、協議会のない県での確立をめざす活動

新たな入会もあったが高齢化などでの活動休止からの退会もあり、全体としては加盟団体数は横ばい。退会の意味表示をした団体への再度の働きかけでとどまった例もあった。

佐賀では、協議会準備会を立ち上げた。宮崎でも、協議会結成をテーマに挙げている。九州祭典のとりくみなどを通して進めている。

70周年祭典も展望してとりくむ関東・東京ブロックでは、ブロック

活動に活気が出てきた。えひめ祭典に向けた四国各県の実行委員会結成で、四国ブロックの交流も進み、徳島での今後の展望も開いた。関西ブロックは毎月の会議で全国テーマについても話し合い、祭典など全国連帯の視野ももって活動している。

7 事業・普及活動

多くの人に喜ばれるうたごえ出版物をつくり、ひろげる活動

①普及、教育・学習の財産としてのうたごえ出版物をみんなのものにし、魅力ある企画製作と旺盛な普及でうたごえの前進の力とする

「メーデー・平和歌集」を発行。普及部数は前年とほぼ同じ。労働運動の状況なども見ながら、制作（編集）、普及のあり方、発売時期など今後の検討課題。祭典の参加運動に生かすため祭典曲集を発行。

歌手生活40年の橋本のぶよライブCD「時代の風」。韓国のサム・トゥッ・ソリ来日にあわせてCD「並んで歩かなくても」、ライブ盤CD「サム・トゥッ・ソリJapan Tour 2016ライブ」を発行。CD「こわしてはいけなく無言館をうたう」。楽譜集は、取り組む合唱団が増え、広がっている。

川口真由美が辺野古ゲート前で歌う活動の中で、1stアルバム「想い続ける」を発行。SNSでCDの話題も拡散されている。京都の洛北青年合唱団では、沖繩ピースソング歌集を使つてうたう会をとりくんだ。

学校現場でも活用されている楽譜集「平和のうた」を、子どもたちに平和のうたを届けるといふポリシーでリニューアル発行。

「選ぶシリーズ」から発展させて、うたごえ運動の草創期の歴史も語り継ぐ企画として「うたごえに生きる」を出版。各地で使った学習会もとりくまれた。

団員全員が普及目標をもってとりくんでいる北海道合唱団など、合唱団の事業普及の経験も学びあいたい。

② インターネットを活用したとりくみで新たな層に広げる

パッケージ商品、楽譜集の発行が困難になりつつある昨今、楽曲のダウンロード販売も活用しながら、普及の方法も考えていく必要がある。

8 郷土のうたと踊り

えひめ祭典の全国郷土合同では、「水軍太鼓：渦潮之曲」を地元の伊豫松山水軍太鼓保存会（10名）と全国から東・西郷土講習会参加者（40名）の50名で演奏し、大音楽会のオープニングを飾った。

郷土講習会は、5月に西日本、6月に東日本を開催し、えひめ祭典の全国郷土合同につないだ。

西日本は、こうべ輪太鼓センターで、松山水軍太鼓保存会鼓響クラブの宮西氏を講師に「水軍太鼓」の講習を行い、他に、琉球國祭り太鼓兵庫支部による「三線の花」の講習が行われた。東日本も、代々木オリンピック青少年センターで、同保存会心参太鼓の三谷真治氏による同曲の講習を行った。また、「水口囃子」の初級・中級講習が、水口囃子八妙会の講師により行われ、近年最高の参加者。

全国郷土合同「水軍太鼓」の演奏や、保存会との協力を広げてきた。東日本では、第19回江戸やっこまつり（6月）が30団体の参加で開催され、「水軍太鼓」の合同演奏が行われた。また、兵庫は2016兵庫のうたごえ祭典 in にしのみやのオープニングで「水軍太鼓」を合同演奏した。各団体が合唱団コンサート等で演奏するなど広がりがあった。

全国協議会郷土部会を開催。郷土講習会取組みを通じて、全国の郷土活動、経験交流が進みつつある。本年は、「江戸やっこまつり」ほか「兵庫県和太鼓と民舞のまつり」が神戸で計画されている。

9 専門家及び他団体との協働

専門家及び他団体との情報交流、協力共同により音楽文化の豊かな発

展をめざす

原水爆禁止日本協議会との定期的な懇談会を行い、核廃絶の世界情勢や、世界大会、被爆者署名などの運動について交流した。全国各地の合唱団が専門家とともに音楽づくりを進めた。

70周年ニューアレンジ編では、新しいつながりも生まれた。講習会の講師、合唱発表会の審査員などでは、引き続き、専門家の協力を得た。「戦争法に終止符を！ 音楽人・団体の会」、うたごえ沖縄基金などにとりくみでも専門家と共にとりくみを進めた。「戦争法に終止符を！ 音楽人・団体の会」、9月と1月につどいを開きアピールした。

10 国際交流

世界の音楽家、音楽団体との国際交流の輪をさらに広げる

センタープロが招聘し、全国協議会が後援して、各地の実行委員会できりくまれたサム・トゥッ・ソリ JAPAN TOUR 2016は、各地で共に歌うとりくみも行われ、音楽の力を届けた。埼玉合唱団は、引き続き韓国平和の木合唱団との交流を続けている。合唱団白樺などがロシア音楽祭にモスクワ国立音楽院合唱団を招聘、演奏交流した。戦争を語り継ぐ、合唱構成「石ころのうた」をヨーロッパで再演した北海道、大阪のロシア合唱団コスモスはモンゴルとバイカル湖で公演した。専門家の力も借りながら、70周年運動の中での国際交流の持ち方含めて、今後、検討を急ぐ必要がある。

人が活きる国、人が育つ町、人が主人公の暮らしを保障する憲法の心をうたごえに込めて、70周年に向かう活動計画案と17年活動方針案70周年をステップとする

うたごえ2023ビジョン

2018年、うたごえ運動は創立70周年を迎える。この70周年からさらに、5年後の2023年を展望し、いまうたごえが求められているもの、将来の運動のあるべき方向を示す貴重な青写真として、「演奏・創造・普及・創作活動の旺盛な展開」「組織建設・普及活動の強化」「専門家・他団体との協力共同・連帯の強化」「合唱発表会運動の活発化」「日本のうたごえ祭典」「うたごえ新聞読者の拡大」「出版事業の旺盛な展開」「教育・学習活動の強化」「郷土のうたと踊り活動の強化」「国際交流の発展」の10のビジョンを柱に、総合的な活動計画をもつ。

1. うたごえ創立70周年に向かう記念事業計画

1. 70周年記念事業委員会の設置

(1) 記念事業委員会の役割

「日本のうたごえ運動」が2018年創立70周年を迎えるのを機に、過去の歴史・教訓に学び、運動のさらなる発展を期し、70周年から75周年を視野においた総合的な発展基本計画（運動指標等）「うたごえ2023ビジョン」を策定し、これを遂行する記念事業委員会を設置する。

(2) 体制について

- ① 委員（日本のうたごえ全国協議会常任委員のほかブロック代表等で構成する）。
- ② 70周年記念事業委員会よびかけ人（記念事業成功のためのよびかけ人を依頼する）。

2. 基本計画の概要

(1) 基本計画の前提

① 目標年次（運動創立70年（2018年）から75年（2023年）にかけて）

② 基本指標

- ア. 団体会員数の拡大数 2018年次目標 500 / 2023年次目標 600
- イ. 団体会員構成員数の拡大数 同 5500 / 同 6000
- ウ. うたごえ新聞の拡大新読者数 同 2000 / 同 4000
- エ. 季刊「日本のうたごえ」拡大新読者数 同 300 / 同 800

(2) 活動計画

1. 演奏・創造・普及・創作活動の旺盛な展開

① 全市区町村、わが町・わが暮らしに平和憲法・9条を守るうたごえを響かせ、憲法のこころをうたう。

② すべてのサークル・合唱団は旺盛な演奏普及活動を行い、全市区町村での「みんなうたう会」を計画もって実践する。

③ 70周年創造プロジェクト活動の「うたごえ愛唱歌ニューアレンジ（6人の作曲家）」曲集普及に努めるとともに、全国各地での演奏普及、70周年祭典に大結集できる具体方針をもつ。

④ 三つの「止」（「戦争法廃止」「辺野古新基地阻止」「原発停止」）をテーマにした「創作記念公募曲」及び「核兵器禁止」を含めた四つの「止」などをテーマにした「みんなで創り歌う」創作活動、演奏・創造を豊かに発展させる。

⑤ 沖縄の闘いが重大局面を迎えており、全国からうたや、学習、創作での連帯支援活動を旺盛に展開する。

⑦ 70周年を記念する作品として、大衆歌曲または合唱曲を創造プロ

プロジェクトで、プロデューズ、運動化する。

2、専門家との協力・協同の作品づくりと演奏

① 70周年を記念する合唱曲を各地で創られている作品の中から記念作品として位置づけ取り組む。

② 75周年に照準をあてた記念作品の制作について具体化していく。

3、合唱発表会運動を活発に

① 日本のうたごえ祭典と合わせ、創造教育の場であり、演奏交流の場であり、うたごえを広く進めていく力となる合唱発表会運動を活発にしていく。

② 近年、本選出場団体が増えてきており、各部門の役割や意味、問題点などを今後検討していく。

4、日本のうたごえ祭典

① 全国各地のうたごえ会、コンサート、地域・産別祭典でうたごえを大きく広め、17年石川、18年東京70周年記念祭典を成功させる。

② 19年以降の祭典計画を祭典プロジェクトで検討、案をもって候補地を決定する。

5、うたごえ新聞の役割を一層輝かせ、史上最高の読者を

① 報道・論評・教育・娯楽・広告媒体の5つの機能があるジャーナリズムの中でも、今の時代を伝え（報道）、今言わなければならないことを言い（論評）、紙面に人間賛歌の感動が溢れている（教育）うたごえ新聞の役割を一層輝かせ、豊かな紙面づくり、読み・広げる活動を推し進め、史上最高の読者を迎える。

② 季刊「日本のうたごえ」の位置づけを高めるとともに団体会員構成の全員購読を積極的にすすめる。

③ 創刊60周年企画として開催した「うたごえ新聞まつり」での池辺晋一郎氏と対談者との12カ所のトークをまとめて出版する。

6、出版事業・普及活動の旺盛な展開

運動のあゆみをつづつた「うたごえの歴史」（仮称）を70周年記念事業の一環として出版する。

7、教育・学習活動の強化

① 演奏・創造を發展させ、運動の理念を引き継いでいく次代の担い手を育てるための土壌（合唱講習会、リーダー養成講座等）づくりを計画的にすすめる。教育体系のシステム化を図る。

② 「グレート・ラブ―関鑑子の生涯」、「関鑑子追想集 大きな紅ばら」、「歌ごえに魅せられて」（関鑑子著）、「うたごえに生きる」（5人の活動家によるテキスト）ほか多数の書籍を運動の教育テキストとして揃え活用するとともに、今日に必要な教材・学習資料の製作も検討する。

8、組織建設と普及

① 全市区町村に、サークル・合唱団をつくり、加盟を500団体に、2023年には600団体をめざすとともに、協議会づくりも強化する。各都道府県で18年総会までの具体目標をもつ。

② 創立70周年記念レセプションを、2018年2月10～11日の全国総会開催期間中―10日夜―に行う。

9、郷土のうたと踊り

① 70周年にむけ、「郷土のうたと踊り」フェスティバル（仮称）を、太鼓や民舞、民謡合唱等、多彩な内容での開催を検討する。

② 地域で活発に行われている活動交流、情報発信、教育資料の整備、指導者の派遣等を担う「全国郷土センター（仮称）」ネットワークづくりをすすめる。

10、国際交流の発展

① 「アジア音楽祭」またはアジアのみならず国際的な視野での「世界

音楽（合唱）祭」的なものについて有識者との懇親会を設けながら、開催について検討する。

①「全国紫金草合唱団」南京・泰州公演（17年）、「悪魔の飽食合唱団」バルト三国公演（18年）など全国各地での海外公演や「サム・トウツ・ソリ2017関西公演」を成功させ、70周年をめざす世界への交流の輪を広げる。

2017年活動方針

第二次世界大戦とアジア太平洋戦争という史上最悪の傷口を負って今から70年前、生み出された日本国憲法は、人類五千年の文明史上で最高の到達点であり、戦争は政府が引き起こすものであることを、初めて明文化した日本と世界の宝物である。

その憲法施行から70年の今日、自衛隊は戦争ができる軍隊にさせられ、米軍基地はとどまるところを知らずさらに拡大されようとし、人権も暮らしもないがしろにする為政者の暴挙で憲法は蹂躪され、泣き苦しんでいる。

百年未来を語るとき、国民主権・個人の尊厳・平和の共存という人類普遍の唯一の道を、憲法として宣言したことをあらためて70年の節目に思い起し、今年も一年大いに憲法の心を歌に託し活動を発展させるため、2017年を以下の活動方針ですすめる。

方針へ1「憲法改悪」に反対し、戦争法廃止、辺野古新基地建設阻止、原発ゼロ、核兵器ノアのたたかいで一致する市民共闘をさらに広げ、連帯しながら「核も基地もない平和な社会」をめざす運動の一翼としてうたごえを広めよう

①戦争法廃止を求める声を全国に広げるとともに、一点共闘で廃止に

むけた取り組みをうたごえで全国津々浦々に広めていく。

②ヒバクシャ国際署名を2020年にむけて毎年25000筆の目標を決めて取り組む。うたをつくり、あらゆるうたう機会を通じて署名を訴え広げていく。

③戦争法廃止の「19日行動」はじめ全国各地での街頭駅前宣伝等を行い、うたや音楽で廃止をアピールする。

・サークル・合唱団・協議会で「戦争法に終止符を！ 音楽人・団体の会」への入会、賛同金の訴え等の取り組みをすすめる。

④普天間基地の無条件撤去を求めるとともに、辺野古新基地建設阻止の座り込み行動など、「沖繩を返せ！ うたごえ大行動本部」の取り組みを強化し、全国でも沖繩支援連帯の取り組みを強める。

・オール沖繩Peace Songポケット歌集を活用し、うたう会、コンサート等機会あるごとに「沖繩を返せ！ うたごえ基金」に取り組みとともに翁長知事への激励ハガキや辺野古座り込みへの参加を強める。

・創作曲や替え歌作りで連帯し、支援の輪を広げる。

⑤東日本大震災の被災地への支援を継続し、復興・再生、原発ゼロの社会をめざす思いを歌にして広げる。

方針へ2「人々の願いと結び、「みんなうたう会」を旺盛に展開し、平和憲法を守り生かす」共に生きる町づくり、地域づくり・職場づくりのうたごえを活発に広げる。

①「いつでも、どこでも、うたごえを」を合言葉に、合唱・器楽・和太鼓・民舞等多様な形態で大勢の人とともに歌う喜びの機会と場をひろげる。

・日常の演奏・創造活動を発展させ、平和で健康なうたを普及する。
・全市区町村、あらゆる職場で、多彩なうたう会活動を展開し、創りうたい広げる普及活動を旺盛に展開する。

②全国各地で平和コンサートや地域原水協とも協力共同して平和うたう会等を開催し、3・1ビキニデー、平和行進、世界大会につなげてい

く。

③多くの人が「こぞって歌える」愛唱歌をつくりだす創作運動を活発にする。

・「みんなでつくり歌う運動」を広げ、新しい創り手を生み出し創作活動と作品交流を活発にする。

・全国創作講習会を誰もが参加できる内容で成功させる。オリジナルコンサートを充実させるとともに、「オリジナルソングブック」の活用を日常的にすすめる。

方針〈3〉地方、産別、全国とも活発にし、学びあい、創造の高まりをめざす合唱発表会をつくる。

①合唱発表会を協議会活動の年間活動の柱に据え、演奏・講評を通じて交流し学び合うという発表会の原点をいっそう輝かせる。

②新しいところに積極的に呼びかけるとともに、運営に工夫を凝らし豊かな交流ができる合唱発表会をつくる。

③合唱発表会参加団体を1600団体に、未開催県の今年度開催計画を持つ。

方針〈4〉地方祭典の全都道府県開催をめざし、日本のうたごえ祭典の長期開催計画をもつ。

①うたごえを起こし、つながりを広げ、新たな発展をめざす「うたごえ祭典」の役割を輝かせ、地域や道府県単位、産業別・階層別の祭典を活発にし、祭典運動の前進をめざす。

②「2017日本のうたごえ祭典 in いしかわ・北陸」を地元、全国の連帯で成功させ、18年、うたごえ70周年記念祭典・東京を準備する。

③19年以降の開催計画を祭典プロジェクトで検討、案を持つ。

方針〈5〉歌の広がりやうたごえ新聞読者につなぎ、運動の魅力と人間的魅力が満載されている、「うたごえ発ジャーナル」としてのうたごえ新聞をいっそう輝かせ、読者を常に意識的に広げる。

①「読み、創り、広げる」を合言葉に、紙面の中からたくさんの運動財産を学び、創造、組織、普及の力にし新読者を2000人増やし70周年に過去最高の読者を迎える。

②規模の大小を問わず「うた新フォーラム」などの全国展開を計画する。

③通信活動を活発にし、全国の活動経験を学びあう。

④季刊「日本のうたごえ」は、運動づくりのテキストとしての位置づけを高め、積極的に活用し、会員構成員の全員購読をめざす。新読者を300人増やす。

方針〈6〉演奏・創造・普及活動を旺盛に展開する中で、運動の歴史に学び、運動の理念を受けつぎ発展させる学習・教育活動をすすめる、次代を担うリーダーが育つ環境づくりを計画的にすすめる。

①運動の歴史を引き継ぎ、日常の練習や活動の中で教育活動を重視する。批評活動や運動の理論学習をすすめる前進への力にしていこう。

②うたごえ新聞、季刊「日本のうたごえ」、事業出版物を学習・教育活動に積極的に活用する。

③各種全国講習会へのサークル・合唱団からの参加を強める。各協議会やブロック等で指揮者・指導者の交流を活発にし、そのネットワークづくりをすすめる。

④サークル・合唱団・協議会の次代を担うリーダーづくりの計画をもつ。

⑤日本のうたごえ祭典の全国合同企画、「日本のうたごえ合唱団」への参加を強め、創造的連帯の前進をめざす。

方針（7）青年の要求に応えた音楽づくり、青年サークルづくりを積極的にすすめる、次代を担う青年を迎える。

①サークル・合唱団・協議会で、青年・学生とつながる活動や「学びの場」を意識的に持つ。

②仲間づくり、サークルづくりへ、団体・分野を越えたネットワークづくりを強める。

③「全国青年のうたごえ祭典 in 長野」を青年のうたごえを活性化する場として位置づけ、青年を積極的に送り出し、「日本のうたごえ祭典 in いしかわ・北陸」につなげる。

方針（8）サークル・合唱団をつくり協議会への加盟をよびかけ、うたごえ協議会の強化と建設をすすめる。空白県をなくすために、サークル加盟を積極的におすすめる。地域ブロックの連帯活動を活発にする。

①サークル・合唱団を新しくつくり、サークル・合唱団員を増やす。

②合唱発表会参加団体や協議会加盟団体を目標を持って計画的に増やしていく。

加盟団体500団体をめざす。

③うたごえ協議会のない県の協議会確立を計画を持ってすすめる。

方針（9）うたごえ事業出版物を多くの人々に広める制作と普及、事業活動を旺盛に展開しよう。

①普及、教育・学習の財産としてのうたごえ出版物をみんなのものにし、魅力ある

企画制作と旺盛な普及でうたごえの前進の力とする。

・歌劇「沖縄」CD2枚組、「2017メーデー歌集」「オール沖縄Peace Song」などCD、DVDなどを活用し、多くの人にうたごえを届け、闘いの大きなうねりをつくろう

・みんなうたごえ、うたごえ喫茶の活性化や拡大のために、出版物の活用や普及に努める。

・サークルや合唱団の演奏活動と結んだCD、楽譜などを出版し普及する。

②全ての協議会加盟団体で事業活動が取り組めるよう事業部担当をおき、事業普及活動を活発に進める

③楽譜のネット配信など、インターネットを活用した取り組みをすすめ、新たな層へのうたごえ普及の力にする。

方針（10）「郷土のうたと踊り」を旺盛に展開し、専門家との協力協同、全国講習会の充実、全国の活動の経験交流などを活発にし、まちづくりにつながる活動を計画をもつて進める。

①東西郷土講習会を成功させる

②全国の郷土活動、経験交流などの情報をうたごえ新聞に反映させる

③専門家・保存会との協力関係をすすめる。

④「郷土のうたと踊りフェスティバル」（仮称）開催を検討する。

方針（11）専門家及び他団体との情報交流、協力共同により音楽文化の豊かな発展をめざそう

①各種合唱講習会、指揮者・指導者講習会はじめ、あらゆる機会をとらえて運動内外の専門家との協力共同をはかり、うたごえの創造的力量をたかめる。

②平和・民主団体との交流を強める。

方針（12）世界の音楽家、音楽団体との国際交流の輪をさらに広げる。とりわけ、アジア、世界への視点で70周年に向かう国際交流の輪をひろげる。

おわりに

今日ほど社会に文化の力が求められている時代はない。

何よりも、文化的にたたかう、文化で連帯することが、多くの人々の心を捉え束ねる力となっている。

昨年の日本のうたごえ祭典大音楽会（働く仲間のおたごえ）で「翼をください」をうたったJAL原告団合唱団フェニックスの女声独唱の印象を音楽評論家の小村公次氏は、「歌に込めた歌い手自身の願いが深い響きとなって聴き手に迫っていた：単なる願望ではなく、屈することのない思いとなって歌われていた：あらためて音楽の持つ力というものを感じた」と評した。

文化、わけても「うたごえ運動」は、創立以来、創造、創作、組織・普及、事業活動を旺盛に展開する中で世界に例を見ない前人未踏の土を踏んできた。まだまだ小なりとはいえ、運動から生まれた数々の歴史の宝石が全国で煌めいている。

来年、進み行くその行く手に「70年」の堅固な一里塚を築く。次なるステップとしての「70年」と捉えるがゆえの一里塚である。

2017年は日本の進路にとつて、過去の過ちを繰り返さない（日中戦争80年）、時代の変化に翻弄されない、世界の中の「役割」を忘れないためにも「歴史」を無二の教訓として学び、活かすことが重要になっている。

歴史は過去と現在と未来との対話であり、いま生きている私たちの日常生活の中に実は、前の世代から次の世代にバトンを渡せるかの「未来への鍵」が秘められている。

「過去は泣きつづけている
たいいていの日本人がきちんと振り返ってくれないので。」

過去ときちんと向き合おうと、未来にかかる夢が見えてくる
いつまでも過去を軽んじていると、やがて未来から軽んじられる」
（井上ひさし「絶筆ノート」より）

今年、西年にふさわしく暁の鶏声「コケコッコ」が聞こえる年にしようではありませんか。「明けない夜は無い」の言葉どおり、希望の光に満ちた「朝」が来たと思える年に。

◆2017年主な日程予定

◎日本のうたごえ祭典 in 石川 11月24日（金）
11月26日（日）

産業別祭典 7月15日（土）

2017全国青年のうたごえ祭典 in 長野 8月19日（土）

2017全国教育のうたごえ祭典 in とくしま 8月27日（日）

私鉄のうたごえ祭典 in なごや 9月9日（土）

第61回国鉄のうたごえ祭典 in 愛媛 9月16日（土）

第62回電通のうたごえ祭典 in K O B E 9月23日（土）

医療のうたごえ祭典・福島 9月10日

保育のうたごえ交流会・神奈川

県祭典・ブロック交流会 4月15日（土）

東京・関東のうたごえ交流会 in 東京 5月27日（土）

東海ブロック交流会・三重

北陸のうたごえ交流会・石川 7月9日(日)

東北のうたごえ交流会 in 岩手 7月15日(土)

第51回山形のうたごえ祭典 9月3日(日)

石川のうたごえ祭典 9月10日(日)

北海道のうたごえ祭典 in 苫小牧 9月16日(土)

和太鼓都民舞のまつり・兵庫 9月24日(日)

2017広島のうたごえ祭典 9月23日(土)

九州のうたごえ祭典 in 大分 10月7日(土)

全国講習会

創作講習会・愛知 4月22日(土) ～ 4月23日(日)

西日本合唱講習会・石川 5月4日(木) ～ 5月5日(金)

西日本郷土講習会・石川 5月6日(土) ～ 5月7日(日)

東日本合唱講習会・千葉 5月20日(土) ～ 5月21日(日)

全国指揮・合唱指導講習会・長野 6月16日(金) ～ 6月18日(日)

東日本郷土講習会・東京 6月24日(土) ～ 6月25日(日)

各種講習会

電通のうたごえ・全国創作講習会 3月17日(金) ～ 3月18日(土)

兵庫

北海道のうたごえ全道講習会 5月20日(土) ～ 5月21日(日)